PROLOGUE
木二中 学校だより No.40 令和7年3月3日
校長　山元　竜二
木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801　千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280　FAX0438(36)2233
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j

Life is a series of choices.「人生は選択の連続である」

14世紀末から16世紀始めにかけて、イタリアから西ヨーロッパ全体に広まった、神中心の文化から人間解放を目指した一大文化革命と言えば？

中学生の皆さんなら社会科(世界史)で学んだはずだと思ますが、正解は「文芸復興」(ぶんげいふっこう)、そう、ルネサンスですね。では、その時代、ルネサンス演劇を代表する劇作家・詩人と言えば？

ウィリアム・シェイクスピア【William Shakespeare 1564年-1616年】になります。答えられましたか？

シェイクスピアの代表作は、世界に名高い四大悲劇、『ハムレット』(Hamlet)『オセロー』(Othello)『リア王』(King Lear)『マクベス』(Macbeth)。そう言えば明治学院大学文学部英文学科に在籍していた当時、必修科目だった「英文学概論」で英文学の歴史的、社会的、文化的背景や古期・中世から20世紀(21世紀)までの代表作について学んだことを思い出します。英文学の本質にたどり着いたかどうかは別にして。

シェイクスピアの代表作の一つである「ハムレット」という作品の中に、冒頭の「Life is a series of choices. (人生は選択の連続である)」という台詞(せりふ)があります。この台詞については人それぞれ解釈の仕方があるかと思いますが、多くの人が「言われてみればそうだなぁ」と感じるのではないでしょうか？３年生の皆さんにとって直近の「選択」は、高校入試(選択)であっただろうし、１・２年生の皆さんにとってみれば、試験期間中にどの教科の勉強をするのか、選択の連続であったはずです。今日は何時に寝て、明日は何時に起きて家を出るのか、天気や気温を考えてどんな服装で出かけるのか等、もっと細かいことを言えば無数の選択を繰り返して生活していることがよくわかると思います。

私は、「Life is a series of choices. (人生は選択の連続である)」という台詞の「～選択」と「の連続である」の間に、「～と『これでいいのか？』という確認」を付け加えたいと考えます。

「Life is a series of choices and confirmations like "Is that okay?". (人生は選択と『これでいいのか？』という確認の連続である)」になるでしょうか。日々繰り返される小さな選択ではなく、先に述べたように人生を大きく左右する高校選択のような選択だったり、就職だったり、結婚相手だったり…。確認するタイミングによっては、「これでよかったのか？」になることもあるでしょう。私のような人生の下り坂をゆっくり下りている者には「己の人生、これでよかったのか？」となるみたいに。

木二中生の皆さん、このお便りを通じて私が何を言いたいのかわかりますか？

「自己の責任・判断の下に決めた選択を少しでも成功(正解)にしていこうとする「選択」の連続なんだと思う。」といつかのお便り(PROLOGUE　No.25)にも記しましたが、今、自分の身の周りに起こっている状況というのは、それまでに自らが歩んできたその「答え」であり、誰のせいでも物事のせいでも何でもないということ。

敢えて厳しいことを記します。友だちがいない？話し相手がいない？誰も振り向いてくれない？人が離れていく原因はすべて他人にあるのだろうか？

学校に行っても思い通りにならないから行かない。人間関係を築くのが苦手だから学校に行かないし外にも出ない。いつまでそんな生活が通用するのだろうか？

身の周りの状況を嘆いて不平・不満を口にする前に、自らの言動・行動のすべて、そしてその基となった自らの選択のすべてを「これでいいのか？」、「これでよかったのか？」と考えなければならないと私は思う。

「失敗をするな」ということを言っているのではありません。失敗は誰にでもあるし、失敗の数だけ挑戦があったわけだから、自らを成長させる失敗は大いにするべきだとも思う。大切なことは、同じ失敗を繰り返さないということ。どこかで現状に折り合いをつけて生きていかなければならないことを知るということ。

例えば「人を裏切ってしまった」という失敗を何度も何度も繰り返していれば、いずれ人は身の回りから簡単に離れていってしまう。例えば、大人になる過程のどこかで思い通りにならないことに折り合いをつけなければ、いつまで経っても中学生のまま、本当の意味で「大人」にはなれない。

現状を自らの力で打破することには当然痛みがともなうでしょう。そんなことは「逃げない」のだから当たり前です。安きに流れてしまう前に、進むべき道の「選択」だけは間違えてはならないと強く思います。